

河床礫付着物の強熱減量によるアユ不漁要因の検討

福島県内水面水産試験場 調査部

1 部門名

水産業—内水面（増養殖）—アユ

2 担当者名

小栗諄也

3 要旨

近年、いわき市の鮫川水系において、アユ遊漁(友釣り)の不振が問題となっている。要因として漁場環境の変化が考えられたため、遊漁が成立していない本流の高柴ダム下と遊漁対象となっている支流の四時川において、河床礫付着物の有機物量を示す強熱減量(%)により餌料環境を比較した。その結果、2025年漁期を通じて高柴ダム下では、河床礫付着物の有機物割合が有意に低く($p < 0.05$)、餌料環境が悪いことが示唆された。

- (1) 2025年7~9月に月1回、鮫川ダム下流の2地点(高柴ダム直下、井上用水堰下)、四時川の3地点(坂下橋、四時大橋、根小屋堰下、図1)でナイロンブラシにより河床礫表面の藻類を採取した。乾燥後、マッフル炉内で600°C 1時間過熱し、強熱減量を測定した。
- (2) 強熱減量は、高柴ダム下で20~48%、井上用水堰下で49~54%であったのに対し、四時川の3地点では60~68%であった(図2)。
- (3) アユが餌料として利用している河床礫付着物は、強熱減量が40%以上を占めると示唆されている⁽¹⁾。本調査では、高柴ダム下でのみ40%を下回る結果が得られており、同地点ではアユ餌料環境が悪く、生育に適さない可能性が示唆された。



図1 調査地点

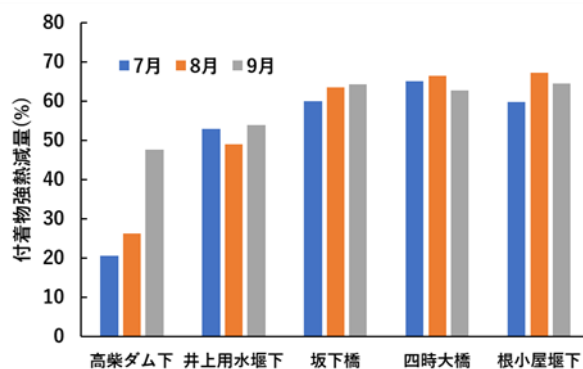


図2 調査地点別河床礫付着物の強熱減量

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3~7年度
- (2) 研究課題名 内水面重要水産資源の増養殖手法の開発

5 主な参考文献・資料

- (1) 皆川明子・萱場祐一(2005): アユの餌資源としての観点からみた河床付着物の評価, 第60回土木学会年次学術講演会講演集, 60:2-217